

しなののうた

つつがなく師の十回忌済みたれば友と飲みゆくビールの旨し



杉田小百合

しなののうた

武蔵野の多摩のホスピス訪いし日の稜線浮かぶ夕茜雲

杉田小百合



しなののうた

挨拶の原稿書く手が震えきて筆の止まるは幾度ありしか



杉田小百合

しなののうた

死ぬのなら癌がいいねと戯れる日の浮かびきて早や十回忌

杉田小百合



しなののうた

永遠の別れを互いに知りつつも  
笑みを浮べて悲しみに堪う

l.MI

杉田小百合